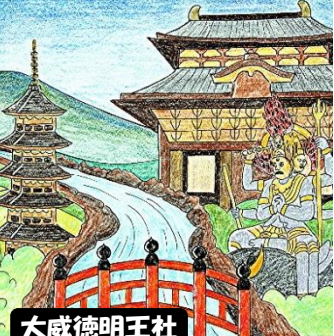
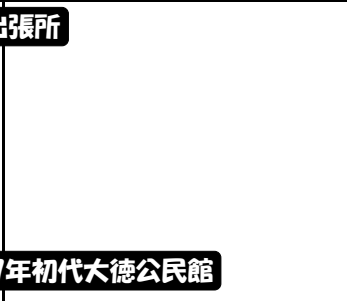


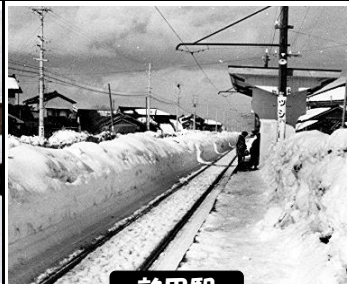
昭和45年発行の「大徳郷土史」には、大徳の発展経緯が全1200ページにわたり記載されている。

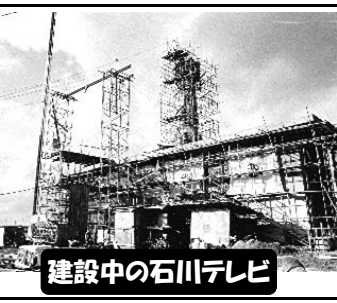
(普正寺町福田弘光氏執筆) 大徳公民館に保管されていた約5000枚の写真とあわせて

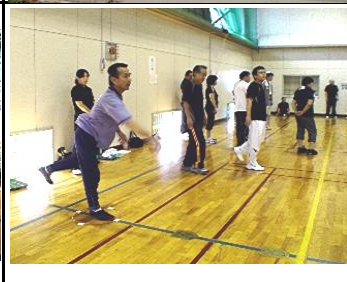
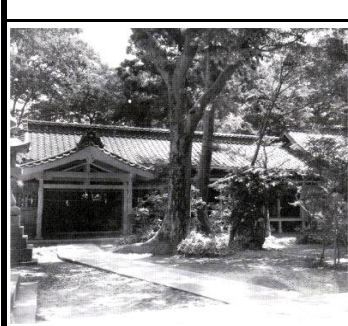
「写真でよむ大徳郷土史」を編集した。多くの皆様に大徳の成り立ちを深めて頂きたいと思います。

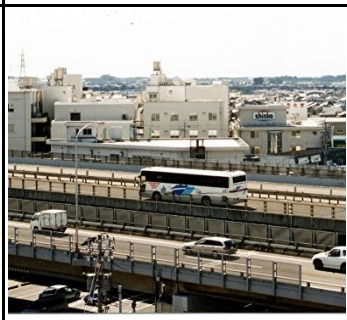
 大威徳明王社	 大威徳明王	① 平安時代前期	大徳名前の由来	昔、宮腰港(金石港)と お城を結ぶ宮腰往還(金石往還)の中程に川が流れ、ほとりに「大威徳明王社」があった。七堂伽藍の大社で、昔は「うし堂」と言われ畝田の武三熊神社の前身である。大威徳明王は郷土芸能の悪魔払いの呪文に出てくる五大明王の一つで、恐ろしい顔をして水牛にまたがり、悪を制圧し戦勝祈願の信仰があった。いつしか大威徳明王の2文字を取り「大徳川」と呼ばれるようになった。
 宮腰新街道の松並木	 宮腰港の帆船	② 江戸時代初期	宮腰新街道	中世からの良港として宮腰港があり、1583年前田利家は七尾城から宮腰港を経由して金沢に入城した。城下町金沢の港として栄え、加賀藩は米や塩の蔵を作り、木上げ場を設けた。元和二年(げんな1616年)尾山への交通、軍事上の整備が必要となり、夜間にかがり火を焚いて線引きして、金石の本龍時から六枚町あたりまで、江戸時代ではまれな直線の宮腰新街道が造られ、その後松並木も造られた。
 明治22年初代大野村役場		③ 明治22年	初代大野村役場	明治22年(1889)町村制が施行されて、7村が合併し大野村となった。(藤江村、畝田村、松村等現在の7町) 又、初代大野村役場は松村地内の往還沿いに平屋で建てられ、後日農業倉庫として利用された。(現在の 消防格納庫、派出所の横地) 以来この付近を中心に大野村が発展していった。
 2代大野村役場		④ 大正12年	2代大野村役場	大正12年(1923)、今から78年前に 現在の大徳公民館の場所に、2代目大野村役場が建てられた。1階には事務所・応接室・宿直室など、2階は会議場とし選挙等に使用。以来村役場付近を中心に(現公民館)村が発展していった。
 昭和11年 2代農協		⑤ 昭和11年	2代農協舎建設	農協は大量の化学肥料を中心に取り扱い、昭和11年2代目農協舎を建設した。1階には事務室・購買室・応接室を設け、2階には大集会場や会議室があった。地区の産業、経済の中心として栄え、近隣住民の農協の売店利用も盛んになった。昭和18年太平洋戦争激化で政府は自治体ごとの連帯責任で米の供出量を割り当てた。
 昭和11年大野尋常高等小学校開校		⑥ 昭和12年	大野尋常小学校	明治6年(1873)観音堂村に初代観音堂小学校(現在の大徳小学校)が開校した。昭和11年大野尋常高等小学校となり、昭和12年運動場に校舎が新築されたが昭和15年わずか3年たらずで火災で全焼した。昭和16年に再度新築されて大野国民学校として開校した。

		市役所大徳出張所 ⑦ 昭和18年	昭和18年第二次世界大戦中に大野村が金沢市に編入した。石川郡大野村役場を廃止し、金沢市役所大徳出張所と改名した。（現大徳公民館の敷地）近くを流れる大徳川より地区名を大徳と名付けられた。市役所は昭和27年に廃止後、初代大徳公民館となる。昭和24年往還の松並木が切り払われ道路が拡張された。
		大徳小学校に改名 ⑧ 昭和22年	昭和18年金沢市立大徳国民学校に名前が変わり、昭和22年大徳小学校と改名された。昭和40年現大徳公民館の場所に小学校給食調理室が完成した。44年にプールが完成し、47年大徳小学校創立百周年記念式を挙行了。昭和47年学童増加によりプレハブ校舎を設置し、その後、新校舎増築工事が始まった。
		金石中学校開校 ⑨ 昭和22年	昭和22年教育基本法ができ、6・3・3制により新生中学校が作られた。大徳・金石・大野・二塚・五郎島が金石校下に入る事になったが、早急に学校校舎を建てられないので27年まで大徳小学校に分校を置いた。28年金石中学校が新築され分校が統合された。
		日海工業・北陸機械 ⑩ 昭和37年	*日海工業は、昭和33年(1958)不二サッシ系列工場としてアルミ製品を主体としたドア サッシ等を7棟の工場生産した。 *北陸機械工業は、戦前より繊維機械を製造し、昭和27年(1952)自動織機で生産を拡大した。37年観音堂町に新工場を建設し、42年従業員約800名が働く大企業となったが、50年に製品の欠陥により倒産する。
		伸晃化学・別川製作所 ⑪ 昭和37年	*別川製作所は昭和30年(1955)に、金石往還沿いに工場を建設し、電気器具部品の製造や事業所の配電盤を製造した。主製品に電気温水器ベッカーがある。 *伸晃化学は合成樹脂成型メーカーとして昭和37年(1962)藤江町に新工場を建設し、医薬用品やほ乳瓶などのプラスチック容器の成型などを生産した。
		松村町郵便局 ⑫ 昭和37年	大徳は古くは金石の商業圏に含まれ、藤江の茶屋や一部の酒屋、駄菓子屋がある程度だった。昭和30年後半(1960～)から交通の発達と金沢市の人口増加で大きく変容し、金沢との距離を縮ませ買物や通勤、通学は金沢へと流れた。昭和37年には松村郵便局が開局した。
		農協は公民館に ⑬ 昭和38年	旧大野村役場が現在の公民館敷地にあり、この場所に大徳小学校給食室建設計画が発生し、又、同時期に3代目大徳農協新築計画があった。昭和38年2代農協舎を横に移築し、2代公民館として使用、以後20年余り住民に利用されたが、建物の老朽化や大徳地区の急激な人口増大や駐車場が無い為に新築が望まれた。

 昭和3年 泉野校舎		市立高畝田に移転 ⑭ 昭和38年	金沢市が設置する唯一の高校で、機械系、建築系、電気系の学科は県内で最も古い伝統を持ち、施設設備が充実している。 昭和38年畝田町に校舎を新築移転 した。実習棟があり施設設備が充実しているのが特徴。弓道部、相撲部、水球部、バドミントン部などが全国大会で優勝している。
 金石往還除雪人夫	 畝田駅	北陸地方38豪雪 ⑮ 昭和38年	昭和37年12月末から降り始めた雪は、 38年1月22日～27日の6日間で3.1mの降雪量 となり、北陸地方が大豪雪となった。 27日の1日の降雪量は観測史上最高1.8mを記録 した。鉄道、道路など全ての陸上輸送が停止し、 金沢は陸の孤島 となり、石油、食糧が深刻な不足となり、金沢港の建設機運が高まり整備が進んだ。
 石川県消防学校		県消防学校移転 ⑯ 昭和38年	昭和22年金沢市第三消防団 大徳分団が発足した。 昭和38年消防学校が松任町より松村の田んぼ （現大徳小グラウンド）に移転してきた。消防団員としての知識・技能・身体を鍛える学校施設です。消防自動車2台、救急救命用具を備え、いつでも出動できる体制を保っていた。昭和40年大徳連合町会ではポンプ車を購入し、昭和56年大徳消防分団の消防ポンプ車 格納庫を新築した。
 3代目農協		3代目農協舎建設 ⑰ 昭和39年	昭和39年3代目農協舎が建設 されたが、昭和45年頃より米あまりが表面化し、減反による生産調整が始まり、 兼業農家が増加 、農業以外の所得が急増した。昭和50年頃には都市化が進み、農地が住宅に変わっていった。次第に機械化が進み田植機やトラクターが普及すると大幅に農業生産が変化した。
 3代目農協売店	 米俵倉庫保管		昭和49年に近隣の5農協が合併し、金沢市中央農業協同組合 が設立された。昭和51年大徳野菜集出荷場を移転改築し、スイカの選果機を導入した。55年には政府の米買い取り価格より生産者への支払い価格が高くなり、売買逆ざやが問題化して、米価が引き下げられた。56年育苗センター、農機具センターを設置した。
 石川総合職業訓練所	 県立金沢産業技術専門学校	職業訓練所開所 ⑱ 昭和39年	昭和33年失業保険福祉施設として発足し、技能者を養成、36年には石川総合職業訓練所なった。職種は自動車整備科・機械科・板金科・鋳物科・織機調整科・フライス盤の6種。さらに隣接して昭和39年石川県金沢職業訓練所が移転開所し、中学卒や中高年齢層の職業訓練を行っている。
 金石警察署 畝田駐在所		金石警察署畝田駐 ⑲ 昭和39年	昔の巡査は治安警備から民生・衛生にいたるまで広い権限をもっていた。 昭和35年頃より金石往還の交通量が増大 し、交通安全が警察職務の大部分を占めるようになった。受持区域を藤江・松村・畝田の3町のみに縮小し、他の無量寺・桂・寺中・普正寺・観音堂の5町は西警察署の受持となった。

 運転免許試験場	②0 昭和 40年	免許 試験 場開 校	昭和38年運転免許受験者の激増で野田免許所の施設が手狭で限界となっていた。それまでの観音堂町の練習場隣接地を買収し、 昭和40年自動車運転免許試験場が観音堂町に完成 した。違反者の再教育を行う安全運転学校も備え、42年には25万人の県民が免許を持つようになり、昭和60年東蚊爪に移転した。	
 中橋踏切	 中橋陸橋	②1 昭和 43年	中橋 陸橋 完成	それまで駅西地区への交通のネックとなっていた 中橋踏切が近代的な陸橋 に生まれかわった。同時期に 金石往還の拡張・舗装 と共に交通事情が一変し、自動車ブームと相まって観音堂自動車運転免許所に多くの人が集まり、せきを切ったように大徳地区に人口・施設が流れ始め発展していった。
 ウォータスライダー	 野鳥園	②2 昭和 44年	健民 海浜公 園	県政百周年事業で健民海浜公園を整備してプール9面、ウォータースライド、野球場など憩いの場を設置した。 昭和58年野鳥園が開園 し、約100種類、400羽の鳥を保護・飼育し、自然観察が出来た。又、普正寺の森では225種の野鳥が確認されており、バードウォッチングやササゴイの池や観察小屋があった。
 建設中の石川テレビ		②3 昭和 44年	石川 テレビ 開局	これまでNHK・MROの2局に加え、石川テレビが昭和44年に開局し、海岸線寄りの電波が飛びやすい観音堂町が選ばれた。新たにUHF電波帯を使用し、高さ148mのアンテナ塔を設置した。放送局は技術室・スタジオ・送信機室などがあり、中継車などにより各地区に取材網が広がっていった。
 38豪雪 2階窓から出入り	 中西知事 開港宣言	②4 昭和 45年	金沢 港開港	昭和38年豪雪 は、陸上交通がストップし、食料品、石油、 生活関連物資が約1ヶ月間に渡り途絶え 、金沢港建設の気運が急速に高まった。39年大野川を利用した掘り込み工事が進められ 45年に開港 した。中西知事は「日本海時代をひらく70年代を迎え、県勢の飛躍的發展を期待し開港を宣言」した。
 大徳郷土史	 大徳情報	②5 昭和 45年	大徳 郷土史 発刊	手取川の扇状地帯に開けた大徳地区は、加賀平野の穀倉地として豊かな湧き水に恵まれ大野荘の中心として栄えてきた。 昭和35年頃になると金沢港、北陸高速自動車道の建設など急激に発展し大きく変 ばうした。祖先や先輩の残してくれた遺跡や業績をまとめて「大徳郷土史」を発刊し後生に残すことになった。
 金石線 畝田駅	 中橋駅 さよなら金石電車	②6 昭和 46年	金石 電車 廃線	明治31年に長田から金石間に馬車鉄道が開通し、その後大正3年には電車に変わり、 中橋駅から大野駅間を北鉄金石線 として運行した。昭和46年の廃線まで 73年間金石往還に沿って走り 、大野醤油・木材・金石の祭り・大野湊神社神事能・市立工業高校生徒通学・エバラボールなどに物資や人を運んだ。

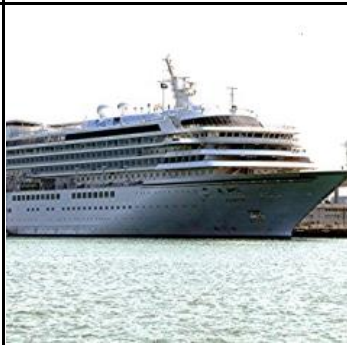
 運動場にプレハブ校舎	 小学校 校舎竣工式	大徳小創立百周年 ②7 昭和47年	昭和45年頃より郊外の宅地化で児童が急激に増え、大徳小学校はプレハブ4棟を運動場に設置した。47(1972)年鉄筋4階建新校舎を建設し創立百周年記念式典が行われた。さらに昭和48年から5年ほどで30教室があいついで増築され、大徳小学校のマンモス化をもたらした。現在の3倍の児童数となり、いよいよ木曳野小学校建設となった。
 藤江に西高校竣工		県立金沢西高校 ②8 昭和50年	金沢駅西地区は、急激な人口増加、宅地化、公共施設の進出など新しい金沢の整備が進む地域に変貌してきた。高校進学率の上昇で昭和50年、藤江に金沢西高校の新校舎が完成した。平成4年県庁移転問題で金沢西高校隣接地が候補地として急浮上し移転、平成10年新校舎が畝田に開校した。
		城西体育館開館 ②9 昭和52年	昭和52年、城西体育館はバレーボールコート2面・バスケット2面・バドミントン6面など、大人数の大会ができる体育館として開館した。町内行事やクラブ活動で利用され災害時の指定避難場所にもなっている。隣に木曳野小学校があり、学校内の体育館やグラウンドと同時に使用でき、大きな大会が開催出来る用になった。
		木曳野小学校開校 ③0 昭和54年	地区の要望に応え木曳野小学校が開校したが、周辺の人口はさらに増加し、早くも校舎が不足となった。57年には4教室増築、59年には27学級、1056名の児童数となった。平成4年人文字アートに挑戦し日本テレビで放映され見事グランプリに輝いた。
 金沢港 防潮水門建設	 新大徳川	新大徳川改修 ③1 昭和57年	昭和39年の集中豪雨による被害をきっかけに大徳川が改修された。さらに急速な宅地化の進行により排水量が増大し、降雨時には再び被害が出るようになった。昭和57年新大徳川の建設が始り、10年後の平成3年に完成した。藤江町を起点とし市立工業高校・畝田・無量寺を通り金沢港に流入し、総延長3.4kmの大きな川が完成した。
		地場産業センター完成 ③2 昭和58年	昭和58年地場産業振興センター・県工業試験場が鞍月に完成した。会議室・講演会・展示商談会などの施設を有料で貸出している。大徳地区は毎年270名を超える成人式を行っている。工業試験場は充実した試験器が企業をサポートし、炭素繊維・3Dプリンター・機能性食品などの最新技術支援、試験分析、研究開発を行っている。
	 大野湊神社 能舞台	大野湊神社神事能 ③3 昭和60年	利家は加賀攻めの先陣をつとめ、その功績により石川・河北の二郡を与えられ、1583年七尾の小丸山城から金沢に移った。宮腰から金沢入城を記念し、毎年百万石祭りが開催されている。関ヶ原の戦いに勝利した利家は、1604年佐那武社（大野湊神社）の能舞台を新築、以来、毎年神事能が盛大に行われてきた。

		34 昭和63年	3代目公民館竣工 昭和38年の大徳地区世帯数が350戸から、56年には5千戸に急増し、公民館や各種団体、グループ等の集会・会議には部屋数が不足してきた。さらに駐車場が全く無い状態だったので3代目公民館建設の機運が高まった。 昭和63年待望の3代目大徳公民館が竣工した。
		35 昭和63年	63畳の大広間で講演会や集会等多目的に利用でき、本格的な茶室、300人収容の大ホール、調理室、会議室等がある。新公民館は 昭和63年度県建築デザイン賞 に輝いている。総事業費約2億円で大徳地区は5千万円負担した。名実共に大徳地区の総合センターとしての機能があり、成人式も行われてきた。
		36 平成元年	北陸高速道路開通 金石往還の交通量増大により、24年に全ての松並木が伐採・拡幅され、34年中橋陸橋の完成により駅西地区の都市化が進み全面舗装された。41年には松任新道、大野新道が舗装され、45年には金沢バイパス・北陸自動車道が開通した。46年金石電車が廃線になり、交通状況は著しく変化していった。
		37 平成2年	大徳中学校開校 昭和40年代後半からの急激な郊外住宅化は、50年代には大徳小学校のマンモス化を招いた。昭和62年生徒数1700名・39学級を超え、第二金石中学校の建設が要望された。平成元年、観音堂自動車運転免許試験場跡地に、21学級・885名で開校し、校訓は「礼・知・徳」です。平成4年にはは空カン回収を兼ね校舎正面に巨大壁画「92ビッグアート」を作り話題となった。
		38 平成5年	県営住宅建設 昭和50年代からの急激な人口増大に対応するため住宅が必要となり、昭和62年に県営住宅1号棟が着工した。最終の6号棟は平成2年に完成し、162世帯の団地となった。集会場、小公園、駐車場が設置され、平成2年には畝田住宅前まで路線バスが開通し便利になった。サラリーマン世帯が中心のマンモス団地の宿命である居住者の転入・転出が目立っていた。
			市編入50周年記念式典 昭和18年に金沢市に編入し名称が大徳となり、平成5年で50年の節目を迎えた。記念事業は、①続大徳郷土史の発行 ②記念式典・祝賀会パーティを開催 ③伝統郷土芸能イベント開催 ④金石往還を歩行者天国にして「はばたけわがまち みんなのフェスタ」を実施した。往還の車を止めるのは無謀に近く、西警察署の許可を得るのは至難の技でした。

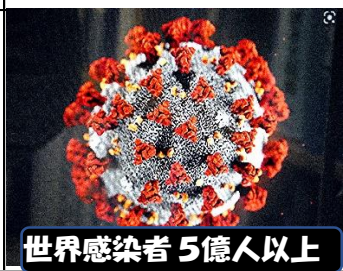
		③9 平成5年	市編入50周年 10月17日、日曜日の午前は大徳小学校で音楽のつどい、公民館では例年の文化祭を実施し「獅子頭展」を開催した。駐車場では3,000食のジャンボ鍋などで混雑した。午後から往還に特設舞台が設けられ、みんなのフェスタで獅子舞・悪魔払い・はしごのぼり・太鼓・みこし・じょんがら踊りなど多くの人が参加し、まとまりのある素晴らしい地区が誕生した。
		④0 平成6年	4代目農協建設 昭和40年代に入ると都市化が進み、多くの土地が売買され、商品的な要素が強くなってきた。昭和58年金沢市中央農協に改名、平成5年は未曾有の凶作で、タイ、カルフォルニア米が緊急輸入された。専業農家ではスイカ・大根・サツマイモが無量寺、桂地区で多く植えられた。平成4年JA金沢中央と改称し、平成6年農協舎を現在の斬新な建物に新築した
		④1 平成9年	タンカー重油流出事故 島根沖でロシアタンカー「ナホトカ号」が座礁し、船体が分断・浸水した。西風により越前海岸から石川県の広い範囲に重油が漂着し被害が拡大した。海上自衛隊、地元住民、全国からボランティアが数千人集まり、ゴム手袋、ひしゃく、バケツで重油のかたまりを人海戦術で取り除いた。金沢は普正寺浜、无量寺浜を中心に活動した。
		④2 平成11年	館報100号カラー化 昭和26年青年団が「大徳情報」を発刊し、28年には公民館館報として発行された。平成8年6月号の館報100号記念特集号は、表紙と裏が初めてカラー印刷され、航空写真で地域を鮮明に映した。その後104号から紙面の大きさがA4となり、館報111号（平成11年3月号）の成人式特集号は、新成人296名が地場産センターで○×ゲームでゲーム感覚で交通ルールを学んだ。196号（令和2年6月号）より全ページがカラー印刷となった。
		④3 1 平成11年	震災訓練 平成7年阪神淡路大震災で死者6300名の大惨事が発生した。平成11年金沢市に震度6強の地震発生を想定し、大徳16町会に避難命令が発動された。約2750名が各町より集団徒歩で大徳中学校に避難し、自衛隊は衛生通信車の出動や炊事調理を行い支援した。地震直後は家族の安否確認、初期消火が重要となる。河川氾濫に300ヶの土のうを作り、企業局給水車や婦人会が大量のおにぎりを作り支援した。
		④4 平成12年	もっくり太鼓中国公演 平成6年大徳地区の女性だけの太鼓チームが発足し、チーム名はこの地区の豊富な湧き水が「もっくりもっくり」と沸き出る様子からつけられた。平成12年、中国との友好の架け橋として中国芸術祭に特別出演したり、毎年公民館文化祭や百万石祭り、地域の行事などに参加してきた。平成30年には、25周年記念演奏会を石川女性センターで盛大に行った。

		④5 1 平成 13年	パ ソ コ ン 教 室	石川県出身の森喜朗内閣は「IT革命戦略」を策定し、全国の公共施設でIT基礎技能講習会を盛んに開催した。大徳公民館初級者コースが月6回、4ヶ月間開催され、基礎操作を習得した。パソコンが爆発的に普及した時期であり、会社の業務、個人でパソコンを使う人が急増し、各企業での説明会が頻繁に行われた。
		④6 平成 14年	海 側 幹 線 道 路 開 通	「金沢外環状道路海側幹線」が開通し交通の円滑化が図られた。白山市乾町から8号線白山IC⇒金沢港近辺⇒金沢市今町までの18.5Kmが整備された。山側幹線と一体となって環状道路を構築し、加賀・金沢・能登がつながり、国道8号線などの周辺道路の慢性的な交通渋滞が緩和され、物流機能の向上や多くの人、ものと呼びこみ地域の活力が高まった。
		④7 平成 14年	公 民 館 50 周 年 式 典	昭和27年に大徳公民館が設立されてから創立50周年となった。山出金沢市長、加納正好連町会長など多数の来賓を招き記念式典が金沢都ホテルで行こなわれ、公民館運営に尽力されてきた方に功労者感謝状が贈呈された。記念誌「だいとく」が発刊され大徳全世帯に配布し愛読された。
		④8 平成 14年	新 県 庁 舎 完 成	県庁舎の町名地番は「鞍月1丁目1番1号」です。平成14年1月6日より中西陽一知事と3千名近くの職員が新庁舎で仕事を始めた。天空にそびえ立つ堂々とした19階建の本庁棟、8階建の警察棟、4階建の議会棟があり傍聴ができる。災害対策本部室には大型スクリーンで災害状況が見られ、現地との対策会議ができる。
		④9 平成 20年	連 町 50 周 年 記 念 式 典	大徳は農村を中心とした地域から、住宅地や商業地へと変貌してきた。近年は県庁移転と共に外環状道路が完成し、大型商業施設進出で大きく様変わりした。昔は500の世帯と謳われていたが、世帯数も増え令和3年12,000世帯、27,000人となり金沢市で一番の大世帯となった。
		⑤0 平成 20年	コ マ ツ 金 沢 工 場	これまでは産業機械などの輸出の大半は他の港まで輸送し、陸上輸送コストが大きく必要だった。金沢港に大浜埠頭が完成し、大水深岸壁で3万トンの大型船舶が接岸できるようになった。近年コンテナ個数が増加しているためガントリークレーンなどを2台設置し作業効率を高めている。小松製作所の建設機械を主に今後の発展が大きく期待されている。

		51 平成20年 総合スポーツセンター完成	大徳に隣接して6000席の観客が収容できる総合スポーツセンターが完成した。白山の山並みをイメージした外観は体育館とは思えないほど立派なものです。生涯スポーツ社会の実現を目指して多くの皆さんが利用している。全国的な大会や国際大会が開催出来るようになり、バレーボールの記念試合で「東レ対デンソー」の試合が行われた。
		52 平成23年 海みらい図書館開館	地域の念願であった図書館が開館し、1年半たらずで来館者が100万人を超えた。直方体の白い壁面は6千個の円窓があり、世界で最も美しい公共図書館ベスト25に選ばれ注目されている。地域住民の交流スペースとして大徳の大きなシンボルとなっている。読書を通じて高い教養を身につけ、今後の多方面の活用が期待されています。
		53 平成25年 市立工業高校改築	昭和38年畝田町に移転新築してから50年が経過し、老朽化のため平成25年新校舎が竣工した。明るく開放的な空間、近代的な学校で約700名がものの作りの感性を学び、さまざまな資格を取得している。247席の階段状メディアホールでは講座、大会議、発表会ができる。落ち着いた雰囲気のリブラリーセンターがあり、和室は茶道部、和装部、生け花部が活用しています。
		54 平成27年 金沢マラソン	北陸の大会では初めてとなる国際陸上競技連盟などの公認コースの認定を受け、全国から1.2万人が参加で行われた。金沢の魅力を満喫できる回遊型コースが設定され、兼六園・石川門・金沢駅など歴史的な景観や城下町、駅西地区を駆け抜けた。松村交差点応援スポットには、太鼓や多くのグループが応援を行い、コース周辺道路では長時間の交通規制が行われた。
		55 平成27年 新幹線金沢駅開業	平成27年新幹線長野駅ー金沢駅間が開業し、金沢駅や金沢中心部に観光客が急増し予想を上回る効果が出ている。全面ガラス張りのもてなしドームの曲線美は世界の優れたデザイン賞を受賞した。兼六園口と金沢港口をつなぐコンコースには、県内の優れた伝統的工芸品が柱や壁面に取付けられ、美術的な雰囲気となり、待合時間を忘れてしまう。
 接岸中の飛鳥II	 工事中の金沢港	56 平成29年 クルーズ船飛鳥II寄港	平成29年には金沢港発着や寄港が54隻予定され、今後さらに増えていく。遠くからその巨大な雄姿が望まれ驚く。金沢港全体を見直す計画が急速に進められ、無量寺岸壁の改修、水深10m掘り下げ工事、みなと会館改築、50m道路からのアクセス向上、駐車場整備など大改修が進められ、さらなる大型船が接岸できるようになる。誰しもが金沢港の発展に目を見張るばかりです。

		57 平成 30年	県中央病院 新築	地下1階・地上10階・屋上にヘリポートを備え、明るいエントランスホール、 外観やロビーはまるでホテルのようだ。ドクターヘリや消防防災ヘリの離着陸が可能 で、全国初の女性専用外来を設置している。高度医療機器を備えモニターを見ながら手術が可能で、全身の高速X線撮影、最新のMRIで癌などの早期発見治療が行われている。
		58 平成 30年	金沢港クレーン	県は港に点在するコンテナ倉庫群を粟崎方面の東部に集約する。年内に上屋を建設し、平成31年にも供用する計画で、コンテナ倉庫起工式を行なった。又、 荷役作業の効率をさらに図る為導入したガントリークレーン2号機 は、港のさらなる利用拡大に期待が高まる。クルーズターミナル建設ではクルーズ船の出入や荷役作業が窓越しに見られるようになる。
		59 平成 31年 令和元年	令和改元	平成の改元から はや30年の歳月が風のように過ぎ去りました。平成には大きな災害が多発し決して平穏とはいえなかった。 新元号「令和」は、万葉集の中より出典 された。『天平2年（730）、長官の屋敷に集まり、宴会を開く。あたかも初春の 令 月、気持ちは晴れやかで風は 和 やかだ。梅は鏡に映す女性のおしろいのような白色に花開き、蘭は腰に付ける匂い袋のように香っている』
		60 令和 2年	緊急事態宣言 発出	新型コロナウイルスまん延に、見えない敵見えない終息期にかつて経験したことのない闘いを強いられ、 世界が恐怖に震撼する非常事態が発生 した。石川県などは特定警戒県に指定され、凍りついてしまった。人口10万人当たりの感染者数は東京に続き石川となる。緊急事態宣言が発出され、感染症との闘いで人の流れは止まり、兼六園などの観光地は閉鎖された。
		61 令和 3年	クルーズターミナル	金沢港ではクルーズターミナル 完成後 、初めての大型船「飛鳥Ⅱ」が4月に寄港し、1年6ヶ月ぶりに海の玄関口がようやく動き始めた。豪華客船を間近で見ようと大勢の人が港に集まり、 来場者数は過去最多となり にぎわいました。谷本知事や山野市長、着物姿の加賀友禅の女性達が出迎え、ターミナル完成後の 初寄港歓迎式典 が行われた。

昭和 45 年発行の「大徳郷土史」には、大徳の発展経緯が全1200ページにわたり説明文と写真で記載されている。
(普正寺町福田弘光氏執筆) 大徳公民館に保管されていた多くの写真とあわせて「写真でよむ大徳郷土史」を編集
本誌に連続掲載して、多くの皆様に大徳の成り立ちや知識を深めてもらいたいと思います。 広報部長 中村外明

		62 令和2年	緊急 事態 宣言 発出	新型コロナウイルスまん延に、見えない敵見えない終息期にかつて経験したことのない闘いを強いられ、世界が恐怖に震撼する非常事態が発生した。石川県などは特定警戒県に指定され、凍りついてしまった。人口10万人当たりの感染者数は東京に続き石川となる。緊急事態宣言が発出され、感染症との闘いで人の流れは止まり、兼六園などの観光地は閉鎖された。
		63 令和3年	クル ーズ ター ミナル	金沢港ではクルーズターミナル完成後、初めての大型船「飛鳥II」が4月に寄港し、1年6ヶ月ぶりに海の玄関口がようやく動き始めた。豪華客船を間近で見ようと大勢の人が港に集まり、来場者数は過去最多となりにぎわいました。谷本知事や山野市長、着物姿の加賀友禅の女性達が出迎え、ターミナル完成後の初寄港歓迎式典が行われた。
	 世界感染者 5億人以上	64 令和4年	コロ ナ3 年目	約100年前に（大正7年）発生したスペイン風邪（現コロナ相当）は、当時第一次世界大戦末期でコレラや結核、インフルエンザで日本人死者40万人の記録が残る。令和4年7月13日の日本全国感染者数982万人超え、死者3万人超え。もはやコロナ感染になれば、終息のめどすら無い。神々にも見捨てられた恐ろしい現状となっている。